

ソクラテス

2016 年本試

問 3 よき生き方を追求したソクラテスは、自らに下された死刑判決を不当としながらも、脱獄の勧めを拒み、国家の法に従って刑を受け入れた。彼の考えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 国家は、理性に従って人々が相互に結んだ社会契約のうえに成立している。それゆえ、国家の不当な決定にも従うことが市民のよき生き方である。
- ② たとえ判決が不当であるとしても、脱獄して国家に対し不正を働いてはならない。不正は、それをなす者自身にとって例外なく悪だからである。
- ③ 脱獄して不正な者と国家にみなされれば、ただ生きても、よく生きることができない。人々に正しいと思われることが正義であり、善だからである。
- ④ 悪いことだと知りつつ脱獄するのは、国家に害をなす行為である。だが、人間の幸福にとって最も重要なのは、国家に配慮して生きることである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	13	②	2

2015 年追試

問 7 幸福やよき生について説いた古代ギリシアの思想家の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① アリストテレスは、幸福とは、中庸を選択する能力である知性的徳と、善や正義を洞察する能力である倫理的徳を働かせて生きることだと説いた。
- ② ソクラテスは、よく生きるためには、「汝自らを知れ」という格言に従って、対話を通じて自らの無知を自覚し、魂に配慮して生きよと説いた。
- ③ ゼノンは、文明化されたポリスの人々の生き方を批判し、人間本来の自然な感情に基づく生に幸福があるとして、「自然に従って生きよ」と説いた。
- ④ エピクロスは、魂の平安(アタラクシア)にこそよき生があるとして、禁欲的生活によって欲望や情念などの心の動揺を取り除くべきと説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	17	②	2

2014 年 追試

問 6 自らの知をめぐって，ソクラテスがどう考えていたかの説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 自分に何一つ知恵はないが，人間にとって最善のことだけは知っている，と自覚していた。
- ② 自分が知者だと思いたがらないために，知っていても知らないふりをするべきだと考えていた。
- ③ 自分は大切なことについて知らないので，そのとおりに，知らないと自覚していた。
- ④ 知らないと知っている以上，自分はすべてを知っていることになると考えていた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	16	③	2

2012 年本試

問 2 対話相手に自らの無知を自覚させるためにソクラテスが用いた方法の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

5

- ① 相手との問答を通して，相手の考えの矛盾を明らかにするという方法
- ② 神託に謙虚に従い，魂がそなえるべき徳に関する知へ誘^{いざな}うという方法
- ③ 善に関する真理を教授し，知を愛することを手助けするという方法
- ④ 魂を主題とする問答を通して，互いの優れた考えを学び合うという方法

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	5	①	2

2011 年追試

問 5 占いに対する哲学者の賛否両論を紹介するキケロの著作では、占いに対する賛否双方の立場から、様々な哲学者の議論が引かれている。次のア～ウは、そこに登場する哲学者についての記述であるが、それぞれ誰だれのことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

9

ア 紀元前 585 年の日食を予言するなど、天文学や幾何学に通じ、自然について合理的説明を与えることを試みたと伝えられている。

イ デルフォイの神託をきっかけとして哲学的対話の活動を始め、ダイモーンの声聞いて自らの行動を律したと言われている。

ウ 神々の摂理を否定することによって、迷信などがもたらす心の動揺から解放されることが、真の快樂を得るために不可欠であると論じた。

- | | | |
|-------------|---------|----------|
| ① ア ピタゴラス | イ ソクラテス | ウ エピクロス |
| ② ア タレス | イ プラトン | ウ ゼノン |
| ③ ア ヘラクレイトス | イ ソクラテス | ウ ゼノン |
| ④ ア ピタゴラス | イ プラトン | ウ プロティノス |
| ⑤ ア タレス | イ ソクラテス | ウ エピクロス |
| ⑥ ア ヘラクレイトス | イ プラトン | ウ プロティノス |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	9	⑤	3

2008 年本試

問 2 ソクラテスの人生は、彼の友人から伝え聞いたデルフォイの神託によって決定づけられたと言われている。その神託の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① ただ生きるのではなく善く生きよ。
- ② 徳は知にほかならない。
- ③ おのれの無知を自覚せよ。
- ④ ソクラテス以上の知者はいない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	6	④	2

2005 年本試

問 2 ソクラテスは自分の問答を産婆術(助産術)と呼んだ。それを説明する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① 産婆は妊婦の出産までの過程を熟知しており，妊婦に適切な出産法を教えることができる。対話相手は無知であるが，問答によってソクラテスから真理を教授されることにより，真偽を判断することができる。
- ② 産婆は高齢のため出産はできないが，妊婦の状態を見極めて，その赤子を取り上げることができる。ソクラテスは無知であるが，問答によって真偽を吟味しながら，対話相手自らの考えを引き出すことができる。
- ③ 産婆は高齢のため身ごもることはできず，出産を助けることだけができる。ソクラテスは無知であるが，問答によって対話相手の考えを引き出す手助けを学ぶことを通じて，無知から解放されるようになる。
- ④ 産婆の助けがないと妊婦の出産は困難であり，出産は両者の協同により成功する。ソクラテスも対話相手も無知であるが，問答によってお互いの不足を補いながら探究することにより，真理に到達できる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	3	②	3

2004 年本試

問 2 ソクラテスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

3

- ① デルフォイの神託がソクラテス以上の知者はいないと告げたことを誇りとし、問答によって人々に真理そのものを説いた。
- ② 神霊（ダイモン）を導入して青年たちを新しい宗教に引き込み、彼らを墮落させたと告発され、アテネを追放された。
- ③ 自らを「無知の知」に基づく知者と公言し、アテネにアカデメイアという学校を創設し、多くの弟子たちを教えた。
- ④ 「汝^{なんじ}自身を知れ」というデルフォイ神殿の標語のもとに、問答法によって人々とともに知の探究に努めた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	3	④	3

2004 年追試

問 3 ソクラテスは問答法におけるロゴスの働きを重視した。ソクラテスのロゴスについての言及として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

4

- ① 万物はロゴスに従って生じているのに、人々はそれに出会ったことがないかのようである。私が各事物を自然本性に従って分析し、その真の在り方を説明しているというのに。
- ② 私という人間は、自分で考慮してみても最善と思われるロゴス以外の他の何ものにも従わない。だから、今この場でもっとよいロゴスが提出されないかぎり決して譲歩しないだろう。
- ③ はじめにロゴスがあった。ロゴスは神であった。万物はロゴスによって成った。ロゴスによらずに成ったものは何一つなかった。ロゴスのうちに命があった。命は人間を照らす光であった。
- ④ 動物の中で人間だけがロゴスをもつ。ロゴスは人間に利と不利を、したがってまた正と不正を表示する。なぜなら、人間だけが善悪、正と不正などを知覚できるからである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	4	②	3

2003 年追試

問 4 プラトンの対話篇に登場する人物が「無知の自覚」を表明したのものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

5

- ① ソクラテスは相手に対して質問するばかりで、自分の方からは何一つ答えようとしなない。答えるよりも問うことの方が簡単だということをよく知っているものだから、誰かに質問されると空とぼけて、あれこれ言いつくろっては答えるのを避けるのだ。
- ② ソクラテスは自ら困難に行き詰まっては、他人も行き詰まらせてしまう。これまで大勢の人々に向かって徳について私が語ってきた話は、自分では立派な内容だと思っていた。ところが、今では徳とは何かということさえ語るができなくなった。
- ③ 対話問答を通して議論を進めていくソクラテスの熱意は、称賛に値する。私は悪い人間ではないし、また私ほど嫉妬心から縁遠い人間はいないので、ソクラテスが知恵にかけて有数の人物の一人になったとしても、決して驚かないだろう。
- ④ ソクラテスという人は、いつもこうなのだ。ほとんど取るに足らないような事柄を問い返しては、相手を反駁しようとする。もし誰かが何事につけてもこの人の言うことに同意してやったなら、この人ときたら、まるで若者のように大喜びするに違いない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	5	②	3

2002 年本試

問 2 古代ギリシャの哲学者の一人としてソクラテスが挙げられるが、その思想内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① 人間はポリス的動物という本性ほんせいに従って社会生活を営む存在であり、正義と友愛の徳もポリスを離れては実現しないと考えた。
- ② 対話的方法を通して自己の魂のあり方を吟味していくことが、「よく生きること」の根本であると主張した。
- ③ 自然と調和して生きることを理想とし、自然を貫く法則性と一致するよう意志を働かせることによって魂の調和が得られると説いた。
- ④ 富や権力や名誉などの外面的なものや社会規範といったものを軽蔑けいべつし、自然に与えられたものだけで満足して生きる生活を理想とした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	3	②	3

2001 年追試

問 1 文中の に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

もとより，^{しやくし} 杓子定規に欲望を抑制すれば，それですべて問題が解決するというわけではない。大切なのは，ソクラテスが と呼ばれる対話的方法で示したように，どのような欲望をどのようなかたちで充足するのかを自覚的に吟味することである。

- ① 読心術 ② 助産術
③ 建築術 ④ 航海術

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	2	②	2

2000 年本試

問 5 倫理を専ら社会的な規制や規範として語り、それらを形式的に守ることのよしあしだけを論じるならば、我々は社会のあり方と自己との結びつきを断ち切り、人と人との関係のあり方を見失うことになるのではないだろうか。このような問いかけに関して、先哲たちの営みはそれぞれどのようなものであったか。彼らの営みとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ソクラテスについては に、孔子については に、ブッダについては に、イエスについては に答えよ。

- ① 若いころから様々な知識や技能を習得し、博識の学者となったが、何でも知ることをよしとしたのではなく、知るということは知っていることを知っていることとし、知らないことを知らないこととすることだと教えた。
- ② 多神教を背景とする部族社会に生じた不公正な富の配分や利己主義の蔓延を批判し、富裕な支配者層からの迫害を受けながらも、終末の審判を行う唯一神への信仰を説き、その信仰に基づく共同体の建設に努めた。
- ③ 苦しみ、傷つきながら生きている人々の声に忖えて、自己中心的な生き方を越え互いに分け隔てなく愛し合うことを教え、日常的であるが故に形式的な遵守にかたむきがちであった規範を根本的に問い直した。
- ④ 人が苦しみを厭いながら苦しみを重ねていくのは、すべては依存しあって成立しているという真理について無知であるためだと考え、この真理を正しく知り他者に対しても慈しみの心を起こすべきだと諭した。
- ⑤ 人間は社会的動物であると考え、よき市民がもつべき倫理的な徳は、過多や過少に陥らない行為を反復することによって形成されると論じ、現実的な視点から社会において友愛や正義が果たす役割を考察した。
- ⑥ 秩序の解体の危機に接して、親しい人への自然な愛を人間関係の基本として秩序に主体的に従うことが追求されるべきだと考え、正しい人が人々の上位に立つならば民衆は和合してその人に付き従うと説いた。

- ⑦ 苦行を通じて自己と絶対者との一体化に至ることが一切の苦悩からの解放の道であるという教えに対して，人生の苦しみの原因は自己に執着することにあると考え，恒常不変の自我という存在を否定した。
- ⑧ よく生きることは正しく生きることであるという前提に立って，国法に従うことを正しいと自ら同意したのであるから，その同意を破るべきではないと述べ，不当な判決には服すべきではないと説く友人の言葉を退けた。
- 。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問5	5	⑧	3
第1問	問5	6	⑥	3
第1問	問5	7	④	3
第1問	問5	8	③	3

2000 年追試

問 4 それぞれの思想・宗教が語っている道徳についての説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

5

- ① ブッダは，正しい知恵を得るために，正しく生活し，正しく修行すべきことを，八正道として説いた。そのうち最初に挙げられる，^{しょうけん}正見が正しい知恵にあたる。
- ② 孔子は，親への孝，兄への悌は倫理の基礎であるとした。それらをもとにまごころを尽くして人々を^{いつく}慈しむことが仁であり，それをさまざまな人間関係に^お押し広める人が君子である。
- ③ ソクラテスは，完全な友愛を通じて人と人が和合するとき，個人のよく生きることが実現すると考えた。したがって，共同体におけるよりよき生のためには，正義だけでは十分ではなく，友愛が必要とされる。
- ④ イエスは，神から万人に注がれる無償の愛に^{こた}応えて，隣人愛を実践するよう説いた。この隣人愛の教えは「何事でも自分のしてもらいたいことは，ほかの人にもそのようにせよ」と表現される。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	5	③	3